

2013.12.10



# 伴野豊の絆レポート

## 伴野豊の活動報告

皆さん、こんにちは！ 伴野豊です。今年も師走を迎え、残すところも20日余りとなりましたが、いかがお過ごしですか。ところで、今回の国会は特に酷かったですね。とりわけ終盤の強行採決の連続、野党委員長の解任など前代未聞です。何が何でも「特定秘密保護法案」を通過させる、そのためには何でもありの安倍政権。アベノミクスがアベノリスクになる現実味を感じます。前回の時も強行採決をやり続けてお腹が痛くなり、政権を投げ出しましたので今回もあり得るかも知れません。

今年も大変お世話になりました。来年も引き続き、現地現場主義を貫いて活動して参りますので、よろしくお願ひ致します。

## 伴野豊の気になる国土交通政策



本日11月29日、内閣官房において**インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議**が開催され、「インフラ長寿命化基本計画」が策定されました。道路や橋、学校などの公共インフラの維持管理・更新の基本指針となるもので、高度成長期に集中整備したインフラの老朽化が本格化する中、人口減少社会の進展も見据え、施設の廃止・撤去を検討する必要性を明記しました。国や自治体の財源が限られているため、建て替えや補修の対象を絞り込み、コスト削減を図る方向性を示しました。また、この基本計画は、インフラの維持管理の基本的な考え方や工程表を提示しています。劣化状況は施設ごとに異なるため、点検や診断の情報を記録し次回の点検に活用する「メンテナンスサイクル」を徹底。老朽化対策を検討する際は、「用途変更や集約化を図る一方、必要性が認められない施設は廃止・撤去を進める」方針を示しました。さらに、昨年12月の中央自動車道笹子トンネルの天井板崩落事故を踏まえ、ロボットやセンサー技術の開発を進め、点検・補修を高度化。2030年には老朽化による重大事故をゼロとする目標を掲げました。各省庁と自治体は、16年度までに中長期的コストの見通しなどを示した行動計画を策定。20年ごろまでに施設ごとの長寿命化計画を作るとのことです。

## 伴野豊の気になる本



今回の伴野豊の気になる本は、**倉本聰**著「**ヒトに問う**」です。「便利さ、豊かさを享受しすぎたすべての日本人へ」というサブタイトルが付いています。「日本人」のところには「ヒト」とあえてルビがふつてあります。「3.11以後、脚本家・倉本聰が二年半にわたり書き綴った自然、文明のあるべき姿、現代への警鐘」ともあります。倉本聰さんといえば、「北の国から」が代表作として余りに有名ですが、富良野に住み、「富良野塾」や「富良野自然塾」を主宰していることでも知られています。「大量生産、大量消費、大量廃棄」への反省は、天野祐吉氏著「成長から成熟へ」に通づるものがあります。「溢れるものから奪うことは難しい。だが、無から暮らしを構築するとき、僕らは全く別の発想に立てる。こうした零からの発想というものこそ、今我々に必要なものではないか。」「地球は子孫から借りているもの」というアメリカ先住民の言い伝えを引用して「消費するエネルギー量そのものを減らすこと」を訴える。「生きる為にヒトがまず必要とするのは、酸素（空気）と水と食料である。」この三つがないと生きていけない。一つでも欠けたとしても生きていけない。この三つ以外のものを手に入れるために、間違ってもこの三つのうちの一つでもないがしろにしてはいけない。「ヒトでありたい。ヒトであれ。」と。また、日本人が「ヒト」として生きて行くためにも「福島」と「使用済み核燃料」について無関心であっていいはずはない。

双葉社（定価：本体1000円＋税別）



ばんの豊 フェイスブック

検索

伴野豊事務所 半田市青山2-19-8

TEL：0569-25-1888

FAX：0569-25-1881

E-mail:office@bannoyutaka.jp

HP：bannoyutaka.jp

衆議院愛知第8選挙区：半田市・常滑市・東海市・知多市

阿久比町・東浦町・南知多町・美浜町・武豊町

